

(1) 授業テーマ

「銀行のしくみ」

(2) 実施日時 2010年7月2日(金)第2時限目

(3) 目的

- ・銀行業務に関する興味・関心を高め、学習意欲を持たせる
- ・銀行業務の社会的意義について考えを深めさせる
- ・銀行業務についての知識を身につけ、銀行員の授業に備えさせる

(4) 教材観

いわゆる金融ビックバンの影響を受ける形で日本の金融業界も再編の動きがおこり、現在においては、大きな再編の動きは一段落しているようである。

この大きな規制緩和の影響を受けて、銀行業務も大幅にかわってきた。何より、日銀ネットの整備等によって、どの銀行の預金も1つのATMから引き出せるようになった。また、銀行においても投資信託等の金融商品を販売することが可能となり、銀行の本来持つ「預金」「融資」「両替」といった三大業務とタイアップした形での業務が可能になりつつある。そのような意味で、この規制緩和は金融業界に大きなチャンスを与えたと言える。

しかし、銀行の業務についての知識が一般に普及しているとはとても言い難い。単なる「お金をあずけるところ」ではなく、様々な社会資本の整備のため、または多くの企業活動のために活躍しているということを理解してもらう必要があると考える。この選択社会科の講座の目的はそこにある。

さて、本時は「利率」をキーワードに市中銀行が一般企業に融資する場合について学習を深めていく。また、この利率の操作に日本銀行が関与していることを理解させることを目的とする。

(4) 学習指導案

時間	生徒の学習活動	備考
9:45	導入 ・前時の復習(日銀ネットについて)	
9:50	銀行業務についての基礎 三大業務についての復習 「預金」家計から余剰資金を集める 「融資」預金からお金を貸す 「両替」外貨両替と振替業務 融資の際の手順 ・申込 審査 融資 返済 利子をつけて、返済する まとめ 銀行側から見て 利子率が高過ぎる 借り手がない 預金は集まる 利子率が低過ぎる 利益が上がらない 預金が集まらない 適正な利子率を設定することが大事  利子率の設定 借り手側の事情 ・好景気(モノが売れる) 生産増加 設備投資 資金不足 高利率でもお金を借りたい ・不景気(モノが売れない) 生産減少 設備削減 資金余剰 低利子でも借りたくない 貸し手側の事情 ・好景気(モノが売れる) 借り手増加 高利率で利益増 ・不景気(モノが売れない) 借り手減少 低利子で融資  日本銀行による調整 ・公定歩合による調整 「準備金制度」の説明 ・マネーサプライ調整のための方法	
10:25	まとめ 利子率の適正な設定が大切であること 利子率の設定には日本銀行による調整が働いている	

(5) 評価の観点

- ・銀行業務に関する興味・関心を高め、学習意欲を持たせたか
- ・銀行業務の社会的意義について考えを深めたか
- ・銀行業務についての知識を身につけ、銀行員の授業に備えたか

中学校社会科(公民的分野)学習指導案

(1) 単元名

「ローンの仕組み」

(2) 実施日時 2010年9月1日(水)第1時限目

(3) 学習の目標

- ・ローンの仕組みや金利について考えようとする。(関心・意欲)
- ・「現在割引価値」の概念について考えることができる。(思考・判断)
- ・資料をもとに、「時間」と「価値」の関連性を読みとることができる(資料活用)
- ・貯蓄と借金の違いについて理解することができる(知識・理解)

(4) 単元観

自己破産件数の増加やお金を借りた人が債務不履行に陥るケースが増加していることをうけて、貸金業法が改正された。このようなことからわかるように、金銭感覚の敏感さや人生に対する計画性が求められている。

やはり、大きな買い物をするときは、融資を受けるのが一般的だがその際に必ず考慮すべきなのは「利息」である。この利息についての知識はとても大事である。「現在の1000万円は10年後も1000万円の価値なのか」という問いに答えられる生徒は多くないだろう。このような「時間」と「価値」ということに焦点をあわせ、利息のメカニズムとローンを組むときに考慮すべき事項について、学習を進めて行きたい。

この学習は数学的な知見を利用する。数学の授業のようにならないように配慮するとともに、実態としてつかみにくいことを直感的に理解できるように、工夫をすることが大事であると考え。

(5)指導計画

	生徒の学習活動	備考
導入 5分	田川の例を紹介 高額なものを購入するときはどうするのか？ 「150万円の自動車を金利2.9%の5年ローンで購入」 田川が1年目に支払う利息はいくらだろうか？ $150 \times 0.029 = 4.35$ (4万3500円の利息)	
展開 37分	単利と複利(復習)  「時間」の概念について (問い) 「今、100万円もらうのがいいか、10年後に110万円もらうのがいいか？」 (答え) 現在の預金金利は0.04%なので、100万円を預金していたとしたら、10年後にも103万円ほどにしかならない。よって、10年後に110万円もらう方が得ということになる。  「時間」 「短期」価値のやりとりが比較的短い コール市場・Inter Bank Market 「長期」価値のやりとりが比較的長い 時間が長くなるとどうなるのか？ 復習：日銀の役割 物価の安定 = 貨幣価値の安定 「時間が長い」 = 貨幣価値が変動する「リスク」が高い (例) 月給30万円の人が3000万円の住宅ローンを借りた。 物価上昇と物価下落のそれぞれの場合で貸した側借りた側の状況を説明する。 ローンの返済期間が長い = 金利が高い(長期金利は高い)	
まとめ 3分	金利に応じた人の行動 ローン金利が高い:お金を返済するのが大変になる 借るのではなく貯蓄に回す 低い:お金を借りた方が「早く」手に入る 貯蓄ではなく借金にする 金利に注意してお金を借りなければならない。	

中学校社会科(公民的分野)学習指導案

(1) 単元名

「銀行の社会的役割」

(2) 実施日時 2010年9月6日(月)第2時限目

(3) 本時のねらい

- ・銀行の新しい業務について理解しようとする。
- ・銀行のしくみについて深く考えることができる。
- ・バンクランについて資料をもとに現象について読み取ることができる。
- ・銀行の仕組みについての用語を理解することができる。

(4) 教材観

現代社会において、銀行の果たす役割は大きい。溶鉱炉や造船ドックなどの長期耐久財を建造するためには銀行の融資が不可欠である。また、近年では海底ケーブルの敷設などの情報インフラ整備にも銀行の融資が使われている。昨今、金融ビッグバンの影響もあり、小口の融資も銀行が取り扱うようになり、銀行の営業の幅は広がっている。

このような観点にたち、銀行が現代社会に果たす役割を多角的に考察していくのが本時の目的の1つである。そのために本時は「銀行が破綻するとどうなるのか?」といった問いを発することから始めた。銀行が破綻すると、まず、預金が戻ってこないという危機感が社会に高まりいわゆる「バンク＝ラン」が発生する。一方で、融資を受けている側も融資が受けられるという見込みで経営をしている場合には企業が倒産する危機に陥ってしまう(もしくは、倒産してしまう)。実際にバンクランが発生した事例などをあげながら、授業を展開していきたい。

このようなことから、銀行の役割の重さについて考察した後、銀行の新しいサービスについても説明を加えていきたい。具体的には金融ビッグバンで新たに銀行に認められた「持ち株会社制度」「銀行における保険商品の販売」「金融機関のディスクロージャー義務」を例にとり、金融サービスについて紹介・考察を加えていく。

(5) 全体の指導計画

- 9月 1日 1時間目 ローンの仕組み
- 9月 6日 2時間目 本時
- 9月17日 2時間目 自分の人生を考えよう
- 9月24日 2時間目 人生と経済

(6)指導計画

	生徒の学習活動	備考
導入 5分	<p>アイスブレイク</p> <p>「なんで銀行は『銀行』っていうの？」</p> <p>Bank の中国語訳を参考にしている。中国語で「行」は店を意味する。明治時代の東アジア(主に中国)の国際通貨は銀だったので、「銀の店」という意味で「銀行」と名付けられた。</p>	<p>少し当たり前だが、知らないところをついてみる 生徒の関心を喚起する</p>
展開 35分	<p>「銀行がなくなったらどうなってしまうだろう？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀行にお金を預けている人 不安になる</li> <li>「バンク＝ラン」の発生</li> <li>豊川信用金庫バンクラン</li> <li>1973年、女子高生の会話から発展していった</li> <li>「信用金庫なんて(強盗とか)危ないわよね」</li> <li>「信用金庫なんて危ないわよね」</li> <li>5日後</li> <li>小さな支店で1650件の引き出し(4億9千万円)</li> <li>信用金庫全体で約20億円の引き出し</li> <li>佐賀銀行バンクラン</li> <li>2003年12月、20代女性のメールが発端となる</li> <li>「佐賀銀行が26日に倒産する」チェーンメール</li> <li>25日の夕方ATMに200人の行列</li> <li>180億円の引き出し</li> <li>・銀行からお金を借りようとしている人 経営危機</li> <li>銀行から融資を受けて支払いをしようとしている</li> <li>不渡り(債務不履行に陥る＝信用失墜)</li> <li>他の銀行 経営危機</li> <li>金融システム全体の危機</li> <li>ますます増える銀行の役割</li> <li>1996年から2001年にかけて行われた金融改革</li> <li>・金融持ち株会社制度の復活</li> <li>・保険商品の販売</li> <li>・ディスクロージャー義務</li> <li>ディスクロージャー義務を詳しく取り扱う</li> </ul>	<p>生徒との会話の中で生徒が発見していけるように、心がける。</p>
まとめ	<p>現代社会において銀行の役割はますます増大している</p>	

中学校社会科(公民的分野)学習指導案

(1)授業表題

「人生の選択～その1～」

(2)実施日時 2010年9月17日(金)第2時限目

(3)授業のねらい

- ・カードゲームを通じて、「選択する」ことを疑似的に体験しようとする(関心意欲)
- ・カードゲームを通じて、自分にとって望ましい選択を考えることができる(思考判断)
- ・カードの内容をよくよみ、その意味を読み取ることができる(資料活用)
- ・予算制約について理解することができる(知識理解)

(4)教材観

平成10年以降、自己破産件数は平成15年をピークに増加しており、大きな社会問題となった。この背景には不景気による消費の冷え込みに加え、規制緩和政策の一環として行われた雇用形態の規制緩和により、雇用環境が不安定化したことも考えられる。近年になって減少に転じているのは過払い利息を認めない判決が出され、利息の返還等が進んでいるためとも言われている。

ともあれ、自己破産に陥ってしまう人が増加するというのは社会全体にとってもよい影響を与えない。なぜなら、破産した場合にはかならず不良債権が発生し、銀行をはじめとする金融機関は大きなダメージを受けることになるからである。それを防ぐためには、銀行の計画的な取り立てや柔軟な返済を可能にする商品開発に加え、消費者側としても、「予算制約」を意識した計画的な消費生活が必要である。

本時はその「予算制約」を意識させることを目的とする。消費は無制限に可能なわけではなく、限られた「予算」のもとにおいてのみ、可能であることを理解させ、また、その予算制約のもとで提示される選択肢から「選択」していくなかで、より、満足度の高い消費行動をしていくことが重要であることも、あわせて理解を深めさせることも目的とする。

(5)指導計画

	生徒の学習活動	備考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"><li>・本時の内容の伝達     ゲームを使った学習をする     何を学習するかを考えながらやってみよう</li><li>・グループ分け     男女別くじ引きによりグループ分け(1グループ5人)     男子:3グループ 女子:2グループ</li></ul>	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"><li>・ライフスタイル選択学習</li><li>・ワークシート配布</li><li>・カードを配布     人生の選択カード     基本生活カード     収入カード</li><li>・ルールの説明     収入カードを1人1枚選ぶ(内容は見てもよい)     基本生活カードを1人1枚選ぶ(内容は見てもよい)     人生の選択カードを選ぶ         結婚する or 結婚しない         家の選択(一戸建て・マンション・賃貸)         子ども(なし・1人・2人・3人)</li><li>・お金の計算をする     年収と自分の選んだライフスタイルの年間支出     貯金ができるかどうか     その生活に満足できるか</li><li>・ライフスタイルの再検討をする<ul style="list-style-type: none"><li>・収入カードの再検討</li><li>・基本生活カードの再検討</li><li>・人生の選択カードの再検討</li></ul></li><li>・お金の計算をする     ワークシートに記入</li><li>・自分が選んだカードとそのカードへの評価</li><li>・自分が選んだライフスタイルとその評価</li><li>・貯金できるか、できないか</li></ul>	
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"><li>「予算制約」があることが理解できたか</li><li>「満足度」を最大にすることができたか</li></ul>	

中学校社会科(公民的分野)学習指導案

(1)授業表題

「人生の選択～その2～」

(2)実施日時 2010年9月24日(金)第2時限目

(3)本時のねらい

- ・今日の超高齢社会を自らにも関係する課題としてとらえようとする(関心・意欲)
- ・超高齢社会に対応した「生き方」を考える(思考・判断)
- ・カードをもとに、年齢に応じた経済状態を読み取る(資料活用)
- ・超高齢社会になっておこりうる諸問題について理解する(知識・理解)

(4)教材観

日本人の平均寿命は近年まで伸び続けてきた。女性の平均寿命はもう80代までのびている。このことから、社会全体でも言うまでもなく退職後の生活、いわゆる「第二の人生」をどのように生きていくかということが大切なものになってきている。

同時に、高齢者の経済状態は二極化していると言われる。若いころから定職につき、堅実に貯金していた人と、貯金にあまり熱心ではなかったり、収入とつりあいのとれない出費ばかりをしていたりしてきた人では「第二の人生」の生き方が異なると言われている。60歳での定年だと考えると、残り30年程の人生が残っているが、せつかくの時間であるので、この時間をいかに楽しく充実した日々を過ごすかということはとても重要な課題である。老後のことを考えなかったばかりに、やってみたかったことができなかつたり、苦しい生活を余儀なくされたりするのはとても嘆かわしいことである。この夏は、生活が苦しく、冷房がかけられなかったばかりに、人生の最期を一人で迎えることとなってしまった高齢者が報道されていた。

このような事態を避けるためという消極的なものではなく、本時は「老後をより充実したものにするためには」ということを考えていきたい。その際にキーとなるのは「年金」「高齢化率」である。前時に使ったカードとモデルプランを使って、生徒たちに60年後を考えさせる授業にしていきたい。

(5)指導計画

	生徒の学習活動	備考
導入 5分	・前時の学習内容の復習 「予算制約」と人生の「選択」 不相应な出費をすると生活が破綻する 限られた収入で充実した人生を送るための「選択」 ・本時の学習内容の提示 「老後の生活」について 60歳以降はどのようにして生活するのかについて考える	
展開 35分	展開 既習知識の確認(5分) 発問1「60歳以降はどんな収入があるのか？」 ・年金 / 退職金 / 給料 発問2「公的年金は月々いくらなのか？」 ・年額 792,100円 月々66,000円 これだけでは生活できない = 厚生年金などの仕組み 展開 年金だけでは生活できない!(10分) 発問3「老後の備えとしてふさわしいものは？」 ・貯金 / 投資(他の収入源の確保) / 勤労 / 生活保護 展開 では、カードで実感しよう(10分) カード・モデルプラン配布 グループごと モデルプランはくじ引きでグループに割り当て 発問4「モデルプランにふさわしい老後の生活は？」 <それぞれのグループで話し合い> 展開 グループが出した結論を発表(10分) それぞれのグループで2分ずつを目安に発表	
まとめ 10分	老後の生活まで考えた人生設計 年金制度が破綻してしまったらどうするのか？ (追加課題として設定)	